

築地（「埋め立て地」の意）に居留地がある。日本政府に雇われていない外国人だけが、ここに住んでいる。居留地は隅田川の河口近くの湾に面する美しい提防の上にある。また何本かの橋が横切る運河のそこかしこに堀割りがめぐらされている。東京は外国貿易の拠点としてふさわしくないということが判明した。外国人の商人が少なく、外国のホテルの数もとるにたらず、得意客もあまりない。他の国の公使達は官庁街に近い堀の内側に住んでいるのに、アメリカ公使館はいまだに築地に執着している。道路は広くきれいだであるが、居留地内の様相はさえない、みじめなものである。人びとは互いにとても近くに住んでいて、互いの退屈きわまりない仕草を見て、絶えずいらいらしている。

築地には伝道教会の壮大な建物がすべてそろっている。この事は実に皮肉なことだが、今までなしえなかったキリスト教会の連合をここ日本で証明している。宣教師達の住んでいる家は数多い。彼らにとつて、このような狭い土地に、一緒に押し込まれているのは、さぞ難儀であろう。宣教師達の住居や教会の他に、彼らは少女のために伝道学校を数校経営している。アメリカ長老派教会、改革派教会、スコットランド一致長老教会の三つのミッションの合同で設立した「東京一致神学校」（明治学院の前身）がある。この最後の「スコットランド一致長老教会」には、五人の伝道者がいる。そのうちの一人は教会医師のフォールズ博士で、小さな病院を開業した。イギリス福音伝播教会には四人の伝道者がいて、英国聖公会宣教師協会には伝道者はたった一人である。カナダメソジスト教会も一人の伝道者がいるのみである。彼らのほとんどは月に一回合同会議を開いている。YMCA（キリスト教青年会）は最近、築地に部屋を開設し、かなりの人気を呼んでいる。